

田尻小の絆 永遠に

116年の歴史に幕

明治33年、川床尋常小学校丸岡分教場として開設された、田尻小学校（引地俊一校長）が3月31日、116年の歴史に幕を閉じました。

3月12日、同校体育館で閉校記念式が行われ、在校生や地域住民のほか、町内外に住む卒業生ら約300人が出席し、学びの閉校を惜しみました。

1世紀あまりの歴史の中で1629人の卒業生を輩出した同校。第36代校長の引地校長は「これから、持てる力を大いに発揮するための新たな旅立ちとなる。本校で全校活動で培われた慈しみの心を持って、これからも田尻の風土として息づいていくものと確信している」と児童らにエールを送りました。

川添町長や来賓のあいさつの後、児童たちへ担任の教諭から一人ひとりが在籍証明書が手渡されました。

最後のPTA会長となった平数太喜さんは「本当に今、学校統合をやらなければならぬのか、田尻小を無くしてもいいのかと迷ったが、児童数の減少が進んだ現在、子どもたちのより良い教育環境を整えるために、

学校統合を選択した。川床小学校へ通うこととなる子どもたちが、新たな歴史と伝統を作っていくことになるが、田尻小での思い出と、絆をいつまでも忘れずにいてほしい」とあいさつしました。

これまで、田尻小に関わった人々からのメッセージが披露された後、引地校長から村田教育長へ校旗が返納され、地域住民らも一緒に校歌を斉唱し、記念式典は閉式されました。式典後の、記念碑除幕式では、川添町長や児童代表らの手で紅白の幕が引かれると田尻小学校のこれまでの沿革が刻まれた記念碑が披露されました。

午後から開催された「田尻小！惜別の会」では、同校の校訓「己に克ち、望み大きくむつみあう」をテーマにした児童らの劇の発表や、今後の展望を歌った俳句が発表されました。

惜別の会で、卒業生代表としてあいさつした吉川修一さん（火ノ浦）は「お世話になった学びやが閉校になることは、とても寂しく、どうにか避けられないかと考えた。しかし、今の子どもたちの教育環境を考えたら、やむを得ないとも思う。田尻の子どもたちのほとんどが幼少期に川床小学校の子どもたちと一緒に過ごした仲間であり、中学校まで一緒であることから、子どもたちは元気に過ごしていったくれるだろうと期待している」と話しました。



↑一人ひとりに手渡された在籍証明書



↑村田教育長へ校旗を返納する引地校長



↑昭和44年に撮影された田尻小学校



↑開校記念碑の前で記念撮影をする全校児童と関係者ら

116年の歩み（沿革）

明治33年1月	川床尋常小学校丸岡分教場開設
明治37年4月	丸岡尋常小学校開設
昭和10年4月	新校舎新築に伴い現在の場所に移転、田尻尋常小学校と校名変更
昭和16年4月	田尻国民学校と校名改称、高等科併設
昭和22年4月	田尻小学校と校名改称
昭和30年9月	二本松グラウンド完成
昭和45年3月	久留米迫字有林ひのき苗8千本植樹
昭和49年4月	黒之瀬戸大橋開通、県営黒之浜・瀬戸間フェリー廃止
昭和53年3月	鉄筋2階建校舎落成
昭和55年9月	国旗掲揚台設置
昭和56年4月	運動場拡張工事完了
昭和56年4月	屋内運動場落成、創立80周年記念式典
平成4年4月	創立80周年記念築山、記念碑建立
平成7年3月	複式学級解消
平成10年4月	新校舎落成
平成12年7月	複式学級再スタート
平成13年3月	校区棒踊り保存会発足
平成18年3月	創立100周年・校舎落成記念式典
平成29年3月	新長島町誕生 閉校記念式典